

憲法理念の実現をめざす 第61回護憲大会

第1分科会 非核・安全保障

ディスカッション

- 4) 「二つの原爆によって広島と長崎のおよそ12万人が亡くなった」という表現と「米国の二つの原子爆弾が広島と長崎の居住者およそ12万人を殺害した」という表現にはどのような違いがありますか。
- 5) 日本ではよく「(記憶の)継承」という言葉が使われるが、それは何を意味するのでしょうか。
- 6) 「次の世代」とは、誰のことでしょうか。
- 7) 今回のノーベル平和賞授賞理由に欠けている視点があるとしたらそれは何でしょうか。

核兵器のない世界のために 私たちができること

第61回 護憲大会
【第1分科会「非核・安全保障」】
ピースボート 島山澄子

11/24日～26日の3日間、岡山県・岡山市で「憲法で未来につなぐ平和の想い」憲法理念の実現をめざす第61回護憲大会が開催され、大阪支部から2名で参加しました。

1日目は「日本国憲法は日本のアイデンティティーか」をテーマにしたディスカッションがおこなわれました。

憲法前文の平和的生存権や南西諸島への自衛隊基地配備の状況などが報告されました。

日本が平和であることが難しくなっているのかも知れません。軍事力増強が解決方法にはならないと思うし、戦争を止めるために何ができるのかを考える機会となりました。

2日目は5つの分科会を開催し、それぞれのテーマでの問題提起と質疑応答が行われました。私は「非核・安全保障」の分科会に参加しました。

3日目の閉会総会では、この大会で討論した内容が報告され、今大会で明らかになったこれまでの運動による成果と今後の課題を各地に持ち帰り、憲法の理念が真に実現するよう努力していこうと誓い合い散会しました。

大会に参加し印象的だったことは、今年、被団協がノーベル平和賞を受賞したことについて、被団協の活動は1つ1つの行動には、すぐに結果が出なくても、また状況が悪くなっていく中であっても、核廃絶、戦争放棄、被爆者救済を訴えることを止めなかった人達の草の根の努力・活動が評価された事には私達の労働運動にも励みになると心打たれました。

全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
大阪支部執行委員 田村 吉雄

憲法理念の実現をめざす
第61回護憲大会

【会期】
令和6年 11月24日(日)～26日(火)

【会場】
岡山芸術創造ホール
岡山コンベンションセンター



平和フォーラム 2024年

ピーススクール

私は平和フォーラムピーススクールに参加しました。

そこでは、日本で生きる難民、移民、外国ルーツを持つ人々について勉強しました。

移動の制限がなくなって、現在はとてもグローバルな世界になっています。

外国ルーツを持つ子供たちも増えてきました。人種、言語、文化生活習慣、宗教の違いなどに対する無理解から人種差別者が生まれてしまうのだと知り、私は衝撃を受けました。

ですが、日本はさまざまな自由が認められているとても豊かな国なので、外国人が仕事につけるようこれからも教育に力を入れ素晴らしい国であり続けて欲しいです。

私にできる事は偏見をなくし、お互いの文化を尊重することだと思いました。これからも政治や世界情勢に関心を持ち続け、正しい情報をとっていきましょう。

関東地方横浜支部港米分会
青年部員 間宮浩貴

